譜面とは単なる符号です

譜面を作るにあたって心掛けたことは、どうやったら一番読みやすくて、なるべくたくさんの人に「歌ってみようかな」という気分になってもらえるか、ということです。

16分音符やシンコペーションだらけで真黒な譜面では、最初から読まれることを拒絶しているようなものですから、細かい唄い回し等は、歌のイメージを損なわないように、出来るだけシンプルにしました。気楽に考えて読んだり、読んでもらったりして下さい。

採譜し終ってみると、私にとってあまりなじみのなかった曲はもちろんですが、しょっちゅうステージでやっている曲でも、「くわしく聞き直したらこんな風になっていたのか」と気付くことがたくさんあって、少しは自分達のレパートリーを理解出来たような気持です。

譜面とは単なる符号です。楽譜が現在の形になってから、さほどの年月はたっておりませんので当然不完全です。同じ場所で同じ音楽を聞いても、人により様々な感じ方もします。ましてや単なる符号ですから橋と箸的な食い違いは避けられません。四分音符（♩）はやはり四分音符でしかありません。でもその中には、万感の思いがこめられているのです。

次にコーラスについて一言。

コーラスの原点はユニゾン（まったく同じメロディーを唄うこと）にあります。ハーモニーをつける場合は、和音を重ねることに執着せずに、それぞれのパートを唄いやすいメロディーにする事に主眼をおくのが一番良いでしょう。

音楽はアド・リブ（アド・リビトゥム：自由に）です。一つ一つの音に万感をこめて、楽しくやりましょう。

聞こえてくる音が音楽ではなく
やっている人が音楽なのです。

一緒に音楽に接する事は
その人と人間関係を持つ事です。

木田たかすけ

歌と唄

この本では〝歌〟と〝唄〟の二字が使われています。
一応使い分けて来たつもりですがとっても主観的です。
完成度の高いうたは歌
口づたえで広がった性質のうたは唄
名詞としてのうたは主に歌
動詞としてうたう場合は唄う
歌詞のないインストゥルメンタルの場合は曲と使いました。
口を貝のように開けるイメージと
和歌の歌といった歌のイメージのちがいなのです。
いずれにしても非常に感情的に使い分けています。不揃いをおゆるし下されませ。

高石ともや